

作成日 : 2015 年 10 月 1 日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : スプラサイドM
 会社名 : 株式会社理研グリーン
 住所 : 東京都台東区東上野 4-8-1
 担当部門 : 開発部 企画開発課
 TEL : 03-6802-8587
 FAX : 03-6802-8303
 緊急連絡電話番号 : 同上

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 1 または 2
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分 3
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分 2
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性・刺激性	区分 2 A
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 1 B
	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 1 (神経系、呼吸器、 肝臓、腎臓) 区分 2 (脾臓) 区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分 1 (神経系、呼吸器、 肝臓) 区分 2 (腎臓)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分 1
	水生環境有害性(慢性)	区分 1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて引火性の高い液体及び蒸気
 飲み込むと有害
 吸入すると生命に危険
 皮膚刺激
 重篤な眼への刺激
 遺伝性疾患の恐れ
 発がんの恐れ
 生殖能または胎児への悪影響の恐れ

臓器(神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)の障害

臓器(脾臓)の障害の恐れ

眠気やめまいの恐れ

長期にわたるまたは反復暴露による臓器(肝臓、呼吸器、神経系)の障害

長期にわたるまたは反復暴露による臓器(腎臓)の障害の恐れ

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【予防策】

- 使用前に取扱い説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- 熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙
- 容器を密閉しておくこと。容器を接地すること。アースをとること。
- 防爆型の電気機器・換気装置・照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。
- 保護手袋・保護メガネ・保護面・呼吸用保護具を着用すること。
- ミスト、ヒューム、スプレー、蒸気を吸入しないこと。
- 屋外または換気の良い場所でのみ取扱うこと。
- 取扱いの際には飲食または喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 必要な時以外は環境への放出を避けること。

【対応】

- 火災の場合には適切な消火方法をとること。
- 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師の診断を受けること。吐かせてはならない。(揮発性液体を含むので、吐かせるとかえって危険が増すことがある。) 有効成分DMTP等の有機りん剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が知られている。
- 皮膚または髪にかかった場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を多量の流水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断を受ける。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- 吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合：清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続ける。
- 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断を受けること。
- 暴露またはその懸念がある場合、医師の診断を受けること。
- 気分が悪い時は、医師の診断を受けること。
- 漏出物は回収すること。

【保管】

- 容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

その他の危険有害性：特に無し。

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

有効成分化学名(一般名)：

0,0-ジメチル-S-[5-メチル-1,3,4-チアゾール-2(2H)ホル-(3)-メチル]ジチオホスフェート
(一般名 DMTP、別名メチダチオン)

成分及び含有量：

成分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
DMTP	30.0%	950-37-8	8-(7)-172	—
化管法第一種指定化学物質				
〈その他〉				
キシレン	24% (21~28%)	1330-20-7	既存物質	(3)-3
安衛法表示・通知対象物、化管法第一種指定化学物質				
エチルベンゼン	22% (19~25%)	100-41-4	既存物質	(3)-28
安衛法通知対象物、化管法第一種指定化学物質				
シクロヘキサノン	2.5%	108-94-1	(3)-2376	(3)-2376
安衛法表示・通知対象物				
灯油	0.56%	64742-81-0	(9)-1702	(9)-1702
安衛法通知対象物				
乳化剤、有機溶剤等	残			

4. 応急措置

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続ける。医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱がせ、付着部を多量の水と石鹼でよく洗浄する。異常が現れた場合には、医師の診断を受ける。

吸入した場合：被災者を速やかに空気の新鮮な場所に移す。直ちに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：水で口の中をすすぎ、カップ1~2杯の水を飲ませる。吐かせてはならない。(揮発性液体を含むので、吐かせるとかえって危険が増すことがある。)直ちに医師の診断を受ける。意識の無い時には口から何も与えてはならない。有効成分DMTP等の有機りん剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤が知られている。

5. 火災時の措置

消火時の注意：消火活動には適切な保護具(自給式呼吸保護具等)を着用する。蒸気、煙等の吸入を避ける。消火水が下水や河川に流れ込まないよう適切な処置をとる。

消火時の注意：消火活動には適切な保護具(自給式呼吸保護具等)を着用し風上より行う。加熱されることによって有害ガスが発生することがあるので、ガス、蒸気、煙等の吸入を避ける。消火水が下水や河川に流れ込まないよう適切な処置をとる。棒状水の使用は火災を拡大する危険な場合がある。

消火剤：粉末、泡沫、炭酸ガス、砂

使ってはならない消火剤：棒状水

6. 漏出時の措置

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを取り除く。適切な保護具(保護衣、保護メガネ、保護マスク等)を着用して、眼や皮膚に触れたり、ガスやミストを吸い込まないようにする。漏出物を土、砂等に吸収させ、密封できる容器に回収する。その後、汚染された場所を水で洗う。漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように措置する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： 局所排気装置を設置し、換気のよい場所で行う。適切な保護具を着用し、吸い込んだり、眼、皮膚に触れないように注意し、風上より作業する。着火源となるものの付近では取扱いをしてはならない。作業後は、すみやかに眼、手、顔を洗い、うがいをする。

保管： 換気のよい冷暗所に保管する。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かない危険物・毒劇物倉庫に施錠して保管する。盗難・紛失の際は警察に届け出る(劇物)。アルカリ性物質と離して貯蔵すること。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 局所排気装置を設ける。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、うがい、安全シャワー設備を設置する。

個人保護具： 状況に応じた適切な保護具を着用する。
防毒マスク(有機溶剤用)、自給式呼吸器、ゴーグル、保護メガネ、保護衣(長袖・長ズボン)、ゴム手袋
作業時に着用していた衣類等は、他のものと分けて洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

外観、臭気： 淡黄色澄明粘稠可乳化液体、特異臭あり。
比重： データ無し。
pH： 3.0~6.5
引火点： 21.8℃(初留点データ無し)
自然発火性： 常温で空気と接触しても自然発火しない。

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の条件下では安定。
危険な反応： 知られていない。
有害な分解物： 知られていない。

11. 有害性情報

急性経口毒性： LD₅₀ 値(mg/kg) 推定値 ATE_{mix}=101mg (毒性未知成分量 17.4%)
急性経皮毒性： LD₅₀ 値(mg/kg) 推定値 ATE_{mix}=31084mg (毒性未知成分量 17.9%)
急性吸入毒性(蒸気)： LC₅₀ 値(mg/L/4h) 推定値 ATE_{mix}=28mg/L (毒性未知成分量 51.1%)
急性吸入毒性(粉塵、ミスト)： LC₅₀ 値(mg/L/4h) 推定値 ATE_{mix}=0.12mg/L (毒性未知成分量 64.3%)
皮膚刺激性： 区分2に分類されるキシレン、シクロヘキサノンおよび灯油を、合計でカットオフ値の10%以上含有することから区分2とした。毒性未知成分量は17.9%。
眼刺激性： ウサギ 中等度刺激性あり
生殖細胞変異原性： 区分2に分類されるシクロヘキサノン、カットオフ値である1%以上含有することから区分2とした。毒性未知成分量は17.9%。
発がん性： 区分2に分類されるエチルベンゼンとシクロヘキサノン、カットオフ値の1%以上含有することから区分2とした。毒性未知成分量は17.9%。

生殖毒性： 区分1Bに分類されるキシレンとエチルベンゼンを、カットオフ値の0.3%以上含有することから区分1Bとした。毒性未知成分量は18.5%。

特定標的臓器毒性(単回暴露)：

区分1(中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓)に分類されるキシレンと、区分1(神経系)に分類されるDMTP原体を、区分1のカットオフ値である10%以上含有する。区分1(脾臓、肝臓、中枢神経系)に分類されるシクロヘキサノンを、区分2のカットオフ値である1%以上・10%未満含有する。区分3(麻酔作用)に分類されるキシレンを、区分3のカットオフ値である20%以上含有する。以上のことから、区分1(中枢神経、呼吸器、肝臓、腎臓)、区分2(脾臓)、区分3(麻酔作用)とした。なお区分2(肺)に分類されるシクロヘキサノンを含有するが、カットオフ値(10%)未満のため該当しない。毒性未知成分量は17.9%。

特定標的臓器毒性(反復暴露)：

区分1(肝臓)に分類されるDMTP原体及び、区分1(神経系、呼吸器)に分類されるキシレンを、区分1のカットオフ値である10%以上含有する。また区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系)に分類されるシクロヘキサノンを、区分2のカットオフ値である1%以上・10%未満含有する。これらのことから、区分1(肝臓、呼吸器、神経系)、区分2(腎臓)とした。毒性未知成分量は38.1%。

1.2. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)：区分1

コイ	LC ₅₀ 値/96hr(mg/L)	16
オオミジンコ	EC ₅₀ 値/48hr(mg/L)	0.021
緑藻*	EbC ₅₀ 値/0-72hr(mg/L)	14.0
	ErC ₅₀ 値/24-48hr(mg/L)	30.4
	ErC ₅₀ 値/24-72hr(mg/L)	38.6
* <i>Selenastrum capricornutum</i>		

水生環境有害性(慢性)：区分1

慢性区分1に分類される成分含量から推定し区分1とした。毒性未知成分量は18.5%。

1.3. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。
 空容器：内容物を使いきった後、3回以上洗浄し適切に処理する。洗浄液は河川、下水等水系に流さないようにする。

1.4. 輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

1.5. 適用法令

農薬取締法

毒物及び劇物取締法(医薬用外劇物)

消防法：引火性液体(第四類第二石油類、非水溶性)

労働安全衛生法

有規則

表示対象物質(施行令18条)：キシレン、シクロヘキサノン

通知対象物(法57条の2)：キシレン、エチルベンゼン、シクロヘキサノン、灯油

化学物質排出把握管理促進法

指定化学物質：DMTP(第一種)、キシレン(第一種)、エチルベンゼン(第一種)

16. その他の情報

参考文献：JIS Z 7252：2009，GHSに基づく化学物質等の分類方法

本データシートの記載内容は、この製品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。